

# 学校教育活動支援ボランティア

学科・専攻 : 関西女子短期大学  
養護保健学科

担当教員 : 森島 研次

連携先 : 関西女子短期大学  
養護保健学科

## プログラム内容

地域の学校では、多様な支援を必要とする子どもが増加しており、学校の教職員だけでは十分な支援を行うことができない状況があり、教育委員会や各学校から、学校教育活動ボランティアを求める声が多数ある。地域の学校教育を支援するとともに、地域の児童生徒に、より充実した教育活動を提供することを目的とする。

## 成果・考察

養護教諭を目指す学生にとって、学校教育活動支援ボランティア活動の参加により机上の学修だけでは得られない学びを得ることが多い。学校現場でのボランティアに参加・体験することで、養護教諭としての資質や能力を高めることができる。また、ボランティアとして教室に入り、児童への様々な支援を経験をしたことで、教育現場の状況を知り、児童生徒に対する見方・捉え方を広げることができた。2年生はボランティア経験を実習に活かして児童と関わることができていたり、養護実習が終了してからも実習校において継続的にボランティアを活動に参加する学生もいた。

教員採用試験において、学校現場等でのボランティア経験について尋ねる教育委員会が増えている。また、継続的な学校教育活動支援ボランティアを加点対象としているところもある。学ぶところが大きい学校教育活動支援ボランティアなので、これまで同様に、ボランティアを募集している学校の情報提供を行い、継続的に参加できるよう促していく必要がある。



関西女子短期大学  
養護保健学科  
森島 研次教授

学校にとってボランティア活動の学生の存在は、児童に関わる大人が増えることになり、一人一人の児童ををきめ細かく支援することができる一助となっている。児童にとっては、学校の先生とは違う大人で、年齢の近い学生と関わることで、自分のことを多角的・多面的に理解してもらえたと感じ安心感が増す。学生にとっては、児童の学校生活全般を広く知ること、講義での学びを深めるために有意義な時間となっている。

一方で、短大での課題を進める時間に追われたり、感染症の流行により活動先を見つけ参加することができなかった学生もいた。

## 学生インタビュー

・実習校と大阪市の小学校で経験させて頂いた。実習時とは違う立場で緊張感も少なくなり、純粋に子どもたちと楽しく関わることができた。教室に入って支援することで様々な児童と一緒に学んでいる姿を知ることができた。地域による違いも体験できたことはよい経験となった。

・実習校にて引き続きボランティアをさせて頂いた。実習中は保健室での対応が中心だったが、ボランティアでは、特別支援の必要な児童を支援する体験ができた。教室に入ること一人ひとりの普段の様子や関り方を学ぶことができ勉強になった。